

# 広島大学マスタース会員紹介



2021.3.27 作成

氏 名 清 水 典 明 (しみず のりあき)

退職年 令和3(2021)年

職歴等

広島大学退職時の所属部局 統合生命科学研究科(生物生産学)

現職

専門分野 分子生物学、がん生物学、染色体の動物細胞工学。

広島大学では、ヒト細胞の中で特定の遺伝子の数が増えたり減ったりすること(遺伝子増幅)を追求。遺伝子増幅の研究から、ヒト細胞の染色体外因子や微小核の研究につながり、遺伝情報が変化していくことへの理解や細胞が癌化する機構の理解、さらにそれをバイオ医薬品の製造技術に応用する研究を行った。

専門にかかわらない特技、趣味等 自然の中を歩くこと。広島県の有人島をすべて歩いた。ほかに本を読むことや音楽を聴くこと。

職歴等主な活動歴 京大農学部卒。大学院は京大ウイルス研究所でインターフェロンの研究。理学博士。山之内製薬(現アステラス製薬)の中央研究所(東京都板橋区)で5年8ヶ月、遺伝子工学を用いてバイオ医薬品候補の研究を行った。昭和63年12月(平成になる1ヶ月前)に広島大学に着任し、以後32年4ヶ月間勤務した。平成6年から1年半、カリフォルニアのソーク生物科学研究所に留学した。帰国後、総合科学部から生物生産学部に移籍したが、研究室は一貫して総合科学部でお世話になった。大学院は長らく生物圏科学研究科で、最後は統合生命科学研究科に所属した。2021年3月に退職し、その後は名誉教授。欧米での学会講演、広大での英語の講義、等、英語は得意ではないが可能。もともと総科なので、教養教育の化学を32年間さんざん担当した。市民公開講座等で生命の話をしたりした。大学入試は化学と生物両方を多数回担当した。学振、AMED、JST、の審査委員を長年多数経験した。動物細胞内での独自の遺伝子増幅技術について特許をたくさん取り、たくさんの企業と共同研究をした。

地域社会での主な活動歴

著書

マスタースでの活動

## 地域社会での活動可能事項

○小学生や園児へ向けて　いきものの「いのち」や「からだ」について、わかりやすく面白く話ができる・・・かもしれない。

○中学生へ向けて　理科、特に化学と生物について、興味を持ってもらえるような話ができる・・・かもしれない。

○高校生へ向けて　生命とは、分子の言葉でどのように理解できるのか、について、興味を持ってもらえるような話ができる・・・かもしれない。

○成人へ向けて　生きているとはどういうことなのか、について、こちらから話題提供をした上で、一緒に考える、といったことは可能・・・かもしれない。

○その他、地域社会において可能な活動　農業に興味がある。農家の人の作業を手伝ったり、生き物の話をしたり聞いたりできればいいなと思う。

